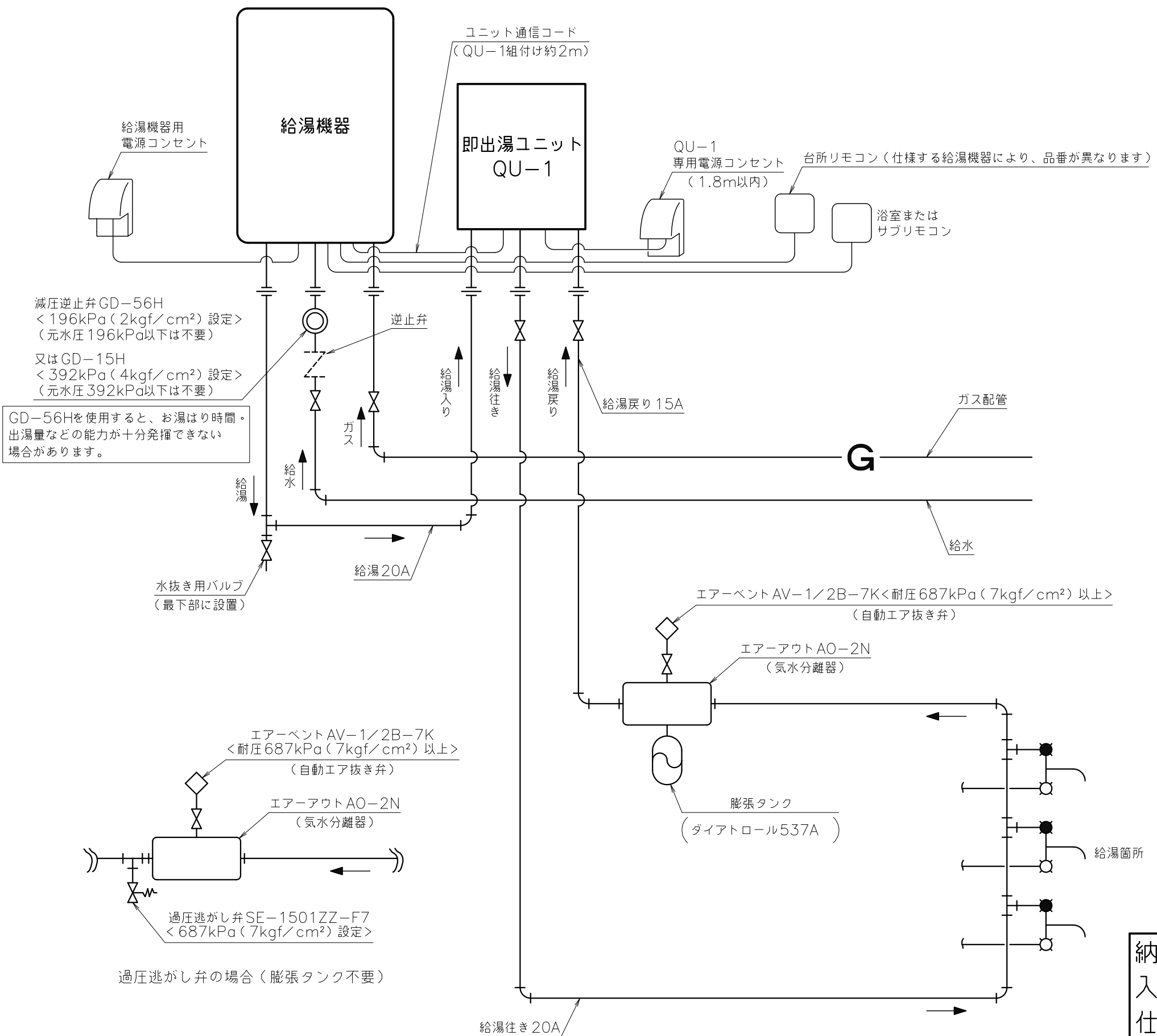


このシステムでは、配管内の保温は即出湯ユニットの電気ヒータおよびポンプの循環でおこない、配管内が暖まるとポンプおよびヒータをOFFさせます。



1. 即出湯の配管（給湯入り・給湯行き・給湯戻り）には即湯保温性（60℃保温）を保つため、必ず保温処理をしてください。
被覆銅管を使用される場合も、保温処理が必要です。

※保温処理目安

往復循環配管長さ	保温材厚さ
30m以内	10mm以上
30m～60m	20mm以上

※往復配管長さが長くなると（特に30m以上）、設定温度まで温度上昇させる時間も長くなります。

2. 給湯入り配管（給湯機器から即出湯ユニット）は極力短くしてください。（保温循環できないため）
3. 給湯入り配管の最下部には、水抜きのためのバルブを設けてください。
4. 即出湯ユニットは屋外（屋内）設置形です。（PS内設置については、所轄の消防署にご確認ください。）
5. 即出湯ユニットを作動させると、配管内の水が体積膨張しますので、循環システムに見合った逃がし弁または、膨張タンクによる膨張水の処理が必要です。
6. エアが溜まりやすい箇所にエアベント（自動エア抜き弁）を取り付けてください。
給湯機器がオートストップ機能付きの場合は、逆止弁付きエアベントを使用してください。
7. 即出湯ユニットは電気ヒータで保温します。
消費電力を確認の上、これに適した給湯機器とは別の専用電源コンセントをユニットから1.8m以内に設置してください。
8. 配管材料はさびないものを使用し、固定は確実に行ってください。固定が確実でないと異音が発生する原因となります。
9. 給湯機器の給水・給湯配管は地域の実状に合わせた保温処理をしてください。
10. 配管工事は給水事業者の指定工事店に依頼し、給水事業者の規定に従ってください。

＜注＞給水を市水道等と直結する場合は、給水事業者にご確認ください。

納入仕様図	製品名		QU-1			
	図名		即出湯配管システム参考図			
	尺度	—	原紙サイズ	A3	図番	98-G-0152
	作成	2002. 8. 6	調整	2018.11. 6	株式会社ノーリツ	

注記 ※対応不可の機器や、他のオプション品との関係で設置不可能な場合がありますので、詳細は支店・営業所にお問い合わせください。
※減圧弁・過圧逃がし弁・膨張タンクの使用条件については、別紙の「工事説明書」又は「即出湯配管施工の注意」をご覧ください。